奈良県の水道

生駒市立光明中学校　三年
相馬　光

ここ最近、全国的に40～50年前につくった水道管が老朽化し、水道管が破裂するといったことがおこっている。そのため水道管を新しくしなければならなくなっている。

老朽化した水道管を新しくするには、沢山の費用がかかる。

しかしながら、現在は、人口の減少により、水の需要が減少し、給水収益の減少、施設稼働率の低下等、さらにベテラン職員が高齢化し大量に退職したことから、人材不足や技術力の低下等、様々な問題を抱えている。

このような全国共通の問題を解決するために、水道行政に関わる人達は様々な取り組みをしている。

奈良県では市町村域を超えた施設の共同化によってそらの問題に立ち向かっているようだ。

そもそも、奈良県は市町村合併が進んでいなくそれぞれの市町村が各自の水道事業をおこなっている。つまり、水をきれいにする上水道の施設をそれぞれの市町村が持っており、すべてを新しくしようとすると莫大な経費がかかるわけだ。そこで今取り組まれているのが、「県域水道ビジョン」というものだ（県のホームページで知った）。

その内容は、県域水道の一体化と簡易水道の広域的支援体制の構築という大きく２つの内容だった。県域水道の一体化は、市町村の各自の水道事業をひとつにまとめ、統廃合することで、施設にかかる費用を安くすることが目的で、簡易水道の広域的体制の構築というのは、奈良県の南の地域の水道を担っている簡易水道の人手不足や、村の高齢化による収益の減少などの問題を支えるために県水道

局に、水質検査など、技術支援をおこなってもらい簡易水道の負担を減らそうというものだ。また、持続可能な、安定した運営体制を研究するため、水道広域連携推進研究会を立ち上げた、簡易水道を支援する受け皿体制のあり方が検討されていることを知った。

まだこれらの案は実施されていないけれど、こういった案がでるのは自分たちの県の水道を良いものにしようとしているからだと考えられる。全国的に水道管の老朽化や人口の減少による水の需要が減る中、奈良県の取り組みは今後の全国の水道事業にも貢献されるものだと思う。今回調べた中で自分が住んでいる県、奈良県が僕たちの飲む水のために、頑張ってくれていることは本当に感謝しないといけないと感じた。

水というのは、人が生きていくために必要不可欠なもので、今は蛇口をひねれば簡単にきれいな水がでる。しかし、そのために水道事業に関わる人たちの頑張りがあることを覚えておきたい。そして、奈良県の水がいつまでも、おいしく、安く、安全に飲み続けられることを願う。